



Weekly Report

創立: 1980年(昭和55年)1月10日

会長: 大島 浩嗣

幹事: 稲葉 徹

会報委員長: 高木 勝

例会日: 例 毎週木曜日 PM12:30~

会場: ヒルトン名古屋

事務局: 460-0008

名古屋市中区栄1丁目3-3

ヒルトン名古屋910号

TEL: 052-211-3803

FAX: 052-211-2623

Mail: 2760nagoya@mizuho-rc.jp

URL: http://www.mizuho-rc.jp/

CELEBRATE ROTARY

2004~2005年度 国際ロータリーのテーマ ロータリーを祝おう 2004~2005年度 R.I会長グレンE・エステス・シニア

第1206回例会

~R財団月間~

2004年11月25日(木) 晴 第20回

司 会: (天野正明会場委員長)
 体 操: ストレッチング(倉澤寛会場委員)
 斉 唱: 「日も風も星も」

会長挨拶

大島浩嗣会長



缶コーヒーの種類が増えて、よく売れているようです。いろいろなタイプがあり、味や豆に工夫を凝らしたものだけでなく、「仕事中」や「休憩中」など飲む場面を提案するタイプも発売されています。2002年秋には50種類から2004年には約80種類に増えています。清涼飲料工業会の調査によりますと、2002年のコーヒー飲料の生産量は276万キロリットルで2001年に炭酸飲料を抜いて茶系飲料に次ぐ巨大市場に成長しています。

缶コーヒーは自動販売機やコンビニで販売されているため、値引きが少ない上、容器そのものも小さいため好採算商品となっています。また、ペットボトルのようにリサイクル費用を直接負担する事ありません。95年に施工された容器包装リサイクル法では、ペットボトルとガラス瓶、紙、プラスチックが対象で、市町村では容器などを分別収集して保管し、飲料容器メーカーが費用を分担して使用済み容器をリサイクルする事になっています。ペットボトルの場合、容器メーカーなどが1kg当たり64円(2003年度)の委託料を拠出して再商品化、業者がボトルの粉碎、洗浄などにかかる費用の一部を委託料として受け取りリサイクルしております。缶コーヒーのようなスチール缶は法施行以前よりリサイクルの仕組みができあがっており、既にリサイクルの優等生でした。地方自治体や民間業者が回収してスチール缶はまず、鉄スクラップ業者が買い取り、再資源化しやすい形に変え、これを鉄鋼メーカーなどが買い取り、建材、レール、スチール缶用鋼板などの原材料に使う仕組みになっております。使用済みスチール缶を有償で買い取るリサイクル市場が出来上がっているため、飲料、容器メーカーには追加の費用負担は発生しない仕組みになっております。そんな点で缶はペットボトルと違ってリサイクルに関してメーカーの費用負担がありません。勢い飲料メーカーは缶飲料の販売に力を入れる様になっています。ただ清涼飲料もペットボトル化が進みつつあり、スチール缶が減少しますとスチール缶のリサイクル市場が成り立たなくなります。市場がなくなれば、スチール缶にもリサイクル費用が発生する可能性もあります。飲料各社は好採算で、リサイクル費用のかからない缶コーヒー等のスチール飲料に力を入れていますが、消費者のニーズが多様化し、容器もスチール缶だけという時代ではなくなりつつあり、スチール缶リサイクルそのものにも問題がありそうです。

幹事報告

稲葉 徹幹事

- ・本日15時30分より熱田神宮会館にて「蛍の飼育に関する説明会」を熱田神宮の蛍飼育に関わる職員の皆様、参加6小学校の担当の先生、並びに児童の代表に対して行います。当クラブからは会長、幹事、田中環境保全委員長を含め6名出席の予定です。
- ・平成17年2月24日(木)に4RC合同例会が瑞穂RCがホストで行われますが、本日例会終了後、その第1回打合会を14時から9階「ことぶきの間」にて行います。
- ・本日指名委員会が18時より「酔人」において開催されます。
- ・次週12月2日(木)は18時より「クリスマス家族会」が5階「銀扇の間」にて開催されます。また、それに先だって16時より「第6回理事会」16時45分より「第4回クラブアッセンブリー」を9階「ことぶきの間」にて行います。関係各位はご出席お願いします。

出席報告

稲垣豊出席委員

会員76名 出席55名 (出席計算人数56名)

出席率78.57%

11月18日は補填により 92.86%

11月11日は補填により 100%

11月4日は補填により 98.21%

臨時例会変更のお知らせ

名古屋		12/14(火)		12/28(火)※
名古屋西		12/16(木)	12/23(木)※	12/30(木)※
名古屋南		12/15(水)		12/29(水)※
名古屋北		12/17(金)		12/31(金)※
名古屋東		12/13(月)		12/27(月)※
名古屋守山	12/8(水)		12/22(水)	12/29(水)※
名古屋東南			12/22(水)	12/29(水)※
名古屋中		12/13(月)		
名古屋名東		12/14(火)		12/28(火)※
名古屋名北			12/22(水)	12/29(水)※
名古屋千種		12/14(火)		12/28(火)※
名古屋大須	12/9(木)		12/23(木)※	12/30(木)※
名古屋栄				12/27(月)※
名古屋名南			12/21(火)◇	12/28(火)※
名古屋名駅			12/22(水)	12/29(水)※
名古屋昭和			12/20(月)	12/27(月)※
名古屋西南		12/16(木)	12/23(木)※	12/30(木)※
名古屋錦		12/14(火)	12/21(火)※	12/28(火)※
名古屋東山	12/9(木)		12/23(木)※	12/30(木)※
名古屋空港		12/13(月)		
豊山一城北		12/14(火)	12/21(火)※	12/28(火)※
西春日井			12/21(火)	

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◇はサイン受付時間が17:30~18:30となります。

- ・本日卓話をさせていただきます。和紙工芸家 **山内 一生様**
- ・結婚記念日にお花を有難うございました。 **松波 恒彦君**
- ・金婚式年を経て、2回目の記念日を迎えて。 **江口 金満君**
- ・11月1日は結婚記念日です。何回目か忘れしました。

景山 和明君

- ・11月27日、家内の誕生日です。10月9日は54回目の結婚記念日でした。 **湯地 輝雄君**

- ・妻のBirthdayに素敵な花を有難うございました。 **亀井 直人君**

- ・11月15日に父が他界しました。いい父でした。 **宗宮 信賢君**

- ・小原村四季桜、満開です。 **細川 達也君**

- ・1)11月24日の蛍幼虫選別に、岡本忠史夫妻、松井善則・渡辺喜代彦、鈴木幹雄、馬場將嘉、細川達也各氏には、お忙しい中をお手伝い頂き有難うございました。

- ・2)本日午後3時30分から、6つの小学校に蛍の飼育に関する説明会が熱田神宮会館で行われ、蛍20匹ずつが各校に配布となります。 **田中 政雄君**

- ・先週は、新入会員研修会をして頂き有難うございました。ぼちぼち勉強していこうと思います。 **船渡 昭人君**

- ・11月18日のボジョレ・ヌーボーの入っていた酒樽を頂きました。ワインは空ですが、ロータリーの友情は一杯入っていました。

山田 鎮浩君

- ・昨日のゴルフ例会で久しぶりに優勝しました。 **本多 清治君**

- ・今日の卓話は山内一生先生をお迎えしております。よろしくお願ひします。 **落合 諭君**

- ・本年も第53回メサイア終わりました。 **鈴木 幹雄君**

- ・いよいよ蛍の時期になりました。昨日は選別、皆さんご苦労様でした。 **松井 善則君**

委員会・同好会報告

環境保全委員会:田中政雄委員長

1) 蛍の飼育について、熱田神宮の方々にご尽力を得ながら勤めていっておりますが、年々減少しているとお聞き致しました。25周年を迎えるにあたり、優雅に舞う妖精を見る事が出来ると良いのですが、また、苑内の別のところでの飼育場も整備されており、何とか新しい蛍の購入をお考え頂ければと思います。

2) 昨日は、岡本忠史ご夫妻、松井善則、渡辺喜代彦、鈴木幹雄、馬場將嘉各氏のお力添えを得ながら、また、副委員長の細川達也君と共に選別を致しました。有難うございました。

3) 本日午後3時30分から、熱田神宮会館に於いて、蛍の飼育に関する説明会が行われ、白鳥、大宝、高蔵、野立、旗屋、船方の六小学校に20匹ずつ配布する事となります。

今後とも皆様のご協力をお願い致します。

グルメ同好会:田中隆義君

11月27日(土)17時30分から京都嵐山「吉兆」で記念例会が開催されます。京都市内は混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用になり、タクシーなどでの移動は避けてください。早めに嵐山までお越し頂き、時間になりましたら会場へ向かわれると良いかと思ひます。

ヴォジョレ・ヌーボーを楽しむ会

11/18(木)18:00より「DINING BAR-Vintage1970」にてヴォジョレ・ヌーボーを楽しむ会が17名で開催され、美味しい料理とワインを楽しみました。歴代幹事と入会6年未満会員の出席がやや少なめだったのが残念でしたが、今年のヴォジョレは格別美味しく感じられ、また、会員の高村君と現在の名誉会員である春日君により発足したというこの会の生まれた経緯のお話もあり、和気合い合いとした雰囲気での開催となりました。

卓話

和紙工芸家 山内一生氏

「和紙放談」

日本では、トイレットペーパーや印画紙など、全ての紙の生産量は世界で第二位です。その国の文化は紙の使用量と印刷の技術でいたい決まるといわれています。印刷に関して、現在では高度な技術ができておりますが、和紙は世界で一番丈夫です。第一次世界大戦の時の講和条約では、日本の紙にイギリスのインクを使ってサインをしたそうです。正倉院に1200年ほど前の紙が残っているのですが、昨日おととい瀧いたような感じで残っているそうです。しかし講和条約の際には「千年もつわけないから和紙ではなく洋紙で結構だ」といわれたというほど、和紙の丈夫さは世界でも定評がありました。

紙を芸術品の域にまでしたのは、小原村におりました私の先生である、藤井先生でした。今までは紙に字や絵を描いたものが芸術品と見なされ、いくら国宝級の人が紙を漉いても、ただの真っ白な紙でしかありませんでした。私が19才の時に小原村を訪れ、藤井先生に聞いた話ですが、「日本は戦争に負けけれども、ドイツ人と日本人は世界の中でも素晴らしい能力を持っている。必ず機械文明がきてアメリカをしのぐような時代がくる。その時に、機械ではできない手工芸の良さが必ず見直される時がくるから絵描きになれ」というのです。今から60年前、食べるものはない、着るものはない、就職するところはない、という時代でした。ところが、日展に何度出品しても落選するので、女房も親戚も「いい加減にやめて農協か役場に勤めなさい」というわけです。しかし働きに行くところがなかったのが結局運がよかったのでしょうか。16人の藤井先生の弟子は最終的には6人になり、今現在は3人です。小原村といえば和紙ですが、その小原村も来年には豊田市になってしまいます。私の名刺からも「小原村」がなくなってしまうのは非常に寂しいことです。時代の流れで仕方のないことでしょうか。

さて、先生がどうして小原村にいらっしゃったかという、戦火を逃れて真鶴からいらしたのだそうです。先生にはいろいろと、生きた勉強を教わることができました。「絶対ということはない、人間はいつ死ぬかわからない、別れるときはこれが最後だと思いなさい」「人間が活着しているときには利害関係があるから社長、社長とおだててくれるが、死んでからこそ勝負なのだ」ということを教えてくださったのも先生でした。ある時私が「こんなところでこんなものを作って売れますか」と先生に尋ねましたら「馬鹿者、お前は土台になれ。土台になって、4代くらい先に期待をかける」とおっしゃいました。そして「相手がほしいと思える物を作れば、自ずから道が出来上がるのだ。自分の代で出来なければ子供に、そして孫やひ孫の代で成就できるよう研究に励みなさい。」とおっしゃいました。そして昭和58年に、私どもの所へ今の天皇・皇后両陛下の行啓をいただきました。そうしましたら途端に道が整備され、先生のおっしゃるとおり、日頃のたゆまぬ努力が大切なのだと思います。

今週卓話

12月2日(木)

クリスマス家族会:18:00より

於:ヒルトン名古屋 5階「銀扇の間」にて

次週行事

12月9日(木)

第3回クラブフォーラム(年次総会)